

和太鼓 en



「和太鼓 en」は、平成5年(1993年)9月に結成しました。子どもの保育所の行事で太鼓をたたいていたのがきっかけで、もっと太鼓を続けていきたいと自分たちで和太鼓のグループを立ち上げました。

始めは太鼓もなく、タイヤをたたきながら練習したこともあります。その後、太鼓の音色に魅せられて、一人また一人とメンバーも増えて、現在は12人で活動しています。「和太鼓 en」の特徴は、メンバーは全員女性だということです。しかし演奏する曲目は激しいものが好きで力強い演奏をしています。今は優しさや繊細さも追求し、技術面や精神面も鍛えていきたいと皆で練習しています。

主な練習場所は、西河原コミュニティセンター、穂積コミュニティセンター、上中条青少年センターなどです。月に3~4回の練習をしています。

「三宅太鼓」や「秩父屋台囃」、「ぶちあわせ太鼓」など各地に伝わる太鼓の演目をステージ用にアレンジしたものを練習しています。現地に向いていってめぐり合った京都府由良町の由良神社に奉納される「由良太鼓」は、地元の方にご指導していただいた思い出深い演目です。大切に打ち続けたいと思っています。

最近自分たちで作ったオリジナル曲に取り組んでいます。曲を作り上げていくことは難しくもあり楽しくもあります。

主な活動は、茨木フェスティバル、各地域のふるさと祭り、敬老会、保育所や幼稚園、小・中学校の行事、周年事業のイベントなどです。いろいろな方との出会いを大切に、これからも演奏活動を続けていきたいと思っています。

連絡先 和田 直子 626-5906

ハッピースマイル応援隊

(メンバーは茨木市から委嘱されて活動しています)



平成15年(2003年)3月に21世紀の茨木市の健康づくり計画として「健康いばらき21」が策定されました。

6月にこの健康づくり活動を地域に広めるためのボランティア(健康づくり推進員)の募集があり、私たちは応募しました。10月から、医師、保健師、栄養士の講義や運動実技などの養成講座を受け、生活習慣病について、またその予防についてしっかりと学習しました。

メンバーは13人。体を動かすことの好きな人、ダンスの好きな人、料理の好きな人、手作りおもちゃを広めたい人、食べることの好きな人…などなど、日々の健康づくりに意欲満々なメンバーが集まりました。

平成16年(2004年)4月から通称「ハッピースマイル応援隊」としての活動が始まりました。保健医療センターで勉強会や集まりをして、わかりやすい健康情報の発信や楽しくてすぐに役立つ健康イベントを企画しています。

8月26日(木)には、もっと子どもたちに野菜を食べしてほしいと、小学5・6年生を対象に保健医療センターで「夏休み子どもクッキング」を開催しました。

10月5日(火)には、生活習慣病の予防にはおすすめの運動習慣として、ウォーキングに注目し、その基本をしっかり学んでもらおうと、市民体育館で「わいわいウォーキング!」を予定しています。時間は9:30~12:00です。(無料)ふるってご参加ください。これからのハッピースマイル応援隊の活動に注目してください!

連絡先 茨木市保健医療センター 625-6685

市民インタビュー



第20回

茨木市民の中からいきいき生活の達人を探し出し、紹介するコーナーです。話から見えてくるその豊かな人生に、きっとあなたも勇気づけられることでしょう。

自主運営組織 脳卒中後遺症者の会代表 藤崎和夫さん

13年前に脳梗塞で倒れ危篤状態から脱した後、後遺症との闘いが始まる。その体験を生かそうと、自主運営組織脳卒中後遺症者の会「いきいき友の会」を設立する。



倒られた時の状況とその後の闘病体験をお聞かせください。

平成3年(1991年)5月の早朝、平穏無事に生活してきた人生が一変しました。目を覚ますと目の前が真っ暗になり、手足がまひしていたのです。すぐに脳梗塞だとわかりました。救急車の中で意識が遠のき、自分は死ぬんだと思いました。数日後、意識を取り戻しましたが、依然と危険な状態が続きました。1カ月後、のどに取り付けた人工呼吸器を外すと、元気な声が出たことで希望を見だし、社会復帰をめざして懸命のリハビリをしました。おかげで4カ月後には車いすでも退院できたのですが、すぐに再発。情緒障害で怒りが暴発し自己統制もできず、つらい孤独な日々を送っていました。そんな時、友人の医師から「自分の脳を活性化できるのは自分しかいない」と厳しくも温かい言葉に励まされ、また5年かかって言葉を回復した方の体験談に勇気づけられ、再びリハビリに励むようになりました。この時、精神的なトンネルから抜け出せたように思いました。

会の設立の経緯をお聞かせください。

保健所、市の保健医療センターなどが支援している地区機能訓練教室(大阪府初)を東地区公民館で行っていると聞いて出かけてみると、そこではいろいろな症状の方が明るく頑張っていました。参加して10カ月たち、自信もできたので、障害者のやる気をより引き出すための組織を目指し、平成6年(1994年)1月、障害者と介護者の自主組織「いきいき友の会」ができました。この会は地区機能訓練教室と並立し、仲間同士で励まし、生きがいを見つける心のリハビリに重点を置いています。寝たきりの原因の1位は脳卒中です。障害者も介護者もともに楽しむことができ、心が軽くなるような催しを計画し実行しています。

会の活動内容をお聞かせください。

料理教室、バス旅行、介護相談、講演会などさまざまな活動をしています。押しつけず人に頼らず、自分たちで話し合い行動するようにしています。また障害者と介護者の癒しの場となるように、情報交換や不満や愚痴も言える懇親会を開いています。地域行事の敬老会にはハンドベル演奏でも積極的に参加し、地域の活性化に寄与して、ともに支え合う共生関係をつくっていかねばと思っています。

今後の目標、課題はありますか。

脳卒中の発症者は減らないのに新会員が増えません。仲間同士が励まし合うことで、機能回復や生活の質が向上し、最高の力になると信じています。まずは東地区公民館での活動を体験していただき、いっしょに楽しんでください。

藤崎さんにとって「生涯学習」とは何ですか。

私は一生が学習だと思っています。病気になって不運でしたが不幸ではありませんでした。病気をしたことで生活が変わり、新しい人間関係が生まれ、新鮮な感動がありました。子どものような好奇心で前向きに人生を楽しみ学びましょう。

- あ あきらめない ありのまま堂々と
- い 生きがいをもつ
- う 運があった 上を向いてゆっくりに歩こう
- え エスケープしない 仲間とともに
- お 応援されるより 応援する方に

明るく胸をはって語る藤崎さんは、まさに77歳青春まっしぐらの人でした。

担当:阿曾 崎間 東實 西村

エッセイ わたしの時間 第14回

ふる里熊本のクラス会。四十三年ぶりの再会は「あんた誰だったかなあ」の第一声から始まった。出席者は男女ともで十一人。髪は白く薄くなつてはいたが、目元と声で名前、顔がよみがえるには時間がかからず、お互いすぐに高校生に戻ってしまった。

いよいよ懇親会が始まり、気配りのよい幹事殿は校歌のテープ、卒業アルバムまで準備し、元コーラス部の女性のリードで斉唱(?)する。懐かしい教室、体育祭、文化祭の写真で笑い、語り合った。恩師や欠席の友人の消息から始まり、夫、妻、子どもそして孫のことまで進展し、深夜まで話が尽きなかった。

まだ現役で頑張っている人、新しい職場での再出発の人、趣味に力を入れてる人、今になって何かを模索している私など様々な生活模様が紹介され、故郷から離れた三重・湯の山温泉のホテルの一室での楽しいひとときはあつという間に過ぎた。

還暦からの再出発。当然のことながら「心も体も健康で！」の合言葉で再会を固く約束して散会となり、久しぶりに清々しい気持ちで帰路についた。

宮原 昭